

## 早稲田大学 基幹/創造/先進理工学部 数学 講評

出題形式	記述式
試験時間	120分
特徴・その他	

## 〔大問別講評〕

番号	出題内容	コメント	難易度
[Ⅰ]	複素数平面	2次方程式のから得られる2つの虚数解は互いに共役であり対称性を利用すれば難しくない。二等辺三角形が相手なので正弦定理などを使わないほうがラク。	やや易
[Ⅱ]	微積(数学Ⅱ)	(1)の面積計算は被積分関数が $(x-\alpha)^2$ になることを利用すればかなりラク。(2)は数えるだけなので拍子抜けした受験生もいたかもしれない。	易
[Ⅲ]	数と式	示したいことを意識しながら式変形すれば難しくはない。素数が絡んでいるものの似たような問題は解いたことがあるだろう。	やや易
[Ⅳ]	微積	減衰曲線に関する出題なので解いたことがある受験生は多かったと思われる。計算もそこまで煩雑ではない。	やや易
[Ⅴ]	確率	空間に関する認識が必要なので戸惑った受験生が多かったと思われる。	標準

## 〔総合コメント〕

3年連続複素数平面が出題された。最後の確率は空間に関するもので難しかったがそれ以外はかなり易しくなった。特に[Ⅱ]はセンターレベルの問題で過去の出題の中でも最も簡単な問題であったと言える。昨年が難しかった反動かもしれないがここまで簡単にするのはやりすぎではないか。